



診断シリーズ①

脳梗塞の検査と治療法

私がお伝えします



社会医療法人ペガサス 馬場記念病院
脳神経外科・副院長

魏 秀復

脳梗塞と診断されたら、適切な治療を受けることが重要です。

発症からの時間によって治療法は異なり、特に4.5時間以内の処置がカギとなります。本資料では、脳梗塞の検査方法や治療法について詳しく解説します。

脳梗塞の検査方法

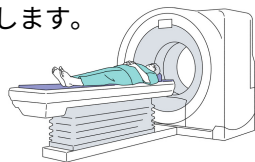
脳梗塞の診断には、以下の検査が行われ、これらの検査を組み合わせることで、適切な治療方針を決定します。

● CT（コンピューター断層撮影）

脳の出血や梗塞の有無を確認します。

● MRI（磁気共鳴画像）

血管の詰まりや梗塞範囲を詳しく分析します。



● MRA（磁気共鳴血管造影）

脳血管の状態を詳細に把握します。

● 頸動脈エコー

動脈硬化の進行度をチェックします。

● 心エコー

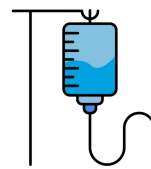
心臓からの血栓の有無を確認します。

治療の選択肢とその効果

脳梗塞の治療は、発症時間と重症度によって異なります。発症後すぐの対応が、回復の可能性を大きく左右します。

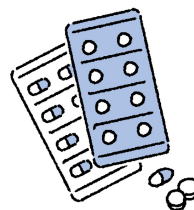
● 急性期治療（4.5時間以内）

t-PA（血栓溶解薬）を点滴し、血栓を溶かします。適用できない場合は、カテーテルを使って血栓を除去します。



● 慢性期治療・再発予防

抗血小板薬や抗凝固薬を用いた再発予防、生活習慣改善が重要。血圧管理や禁煙・運動も有効です。



Column

発症直後の迅速な行動が、治療の選択肢を左右する

脳梗塞は発症から時間が短いほど治療の選択肢が増えます。迷わず救急車を呼び、迅速に病院で適切な治療を受けましょう。



(2025.3.19)

画像提供：PIXTA

